

街道を歩く

- ①：今須國境—柏原—梓—醒ヶ井 () 朝鮮通信使街道
- ②：醒ヶ井—番場—鳥居本
- ③：鳥居本—高宮 (鳥居本追分-彦根城下-日夏)
- ④：高宮—葛籠—豊郷(下枝) (日夏-稲里-愛知川八幡橋)
- ⑤：豊郷(下枝)—愛知川—五個荘 (愛知川八幡橋-安土北腰越)
- ⑥：五個荘—武佐—馬淵 (安土北腰越-近江八幡黒橋川)
- ⑦：馬淵—野洲 (近江八幡-野洲富波乙)
- ⑧：野洲—守山—草津 (富波乙-野洲-分岐点)

中山道

近江路は東から柏原、醒ヶ井、鳥居本、高宮、愛知川、武佐、守山、草津の9宿、約15里半(63KM)の道。

草津からは東海道と合流し大津、逢坂峠越え京都に通じる。

近江路は古代東山道の駅家を見ると横川(坂田郡)、鳥籠(犬上郡)、清水鼻(神崎郡)篠原(野洲郡)を通る、この頃からルートはあった。鎌倉時代には柏原、醒ヶ井、番場、愛知川、武佐、守山等は宿駅として既にあり江戸時代に入って鳥居本、高宮宿が設けられた。

近江路は東海道との分岐ばかりでなく、鳥居本の北、下矢倉で北国街道、南で朝鮮通信使街道、高宮で多賀道、小幡で御代参街道、武佐で八風街道、野洲で朝鮮通信使街道と分岐、合流が多い。それだけ交通の要所であったと言える。

また、歴史的にも、①壬申の乱の大海人皇子軍の進軍ルート②南北朝時代の悲話、③近江源氏佐々木氏の盛衰、④織田信長の天下盗り・・・など数々の歴史が残る街道である。

朝鮮通信使街道

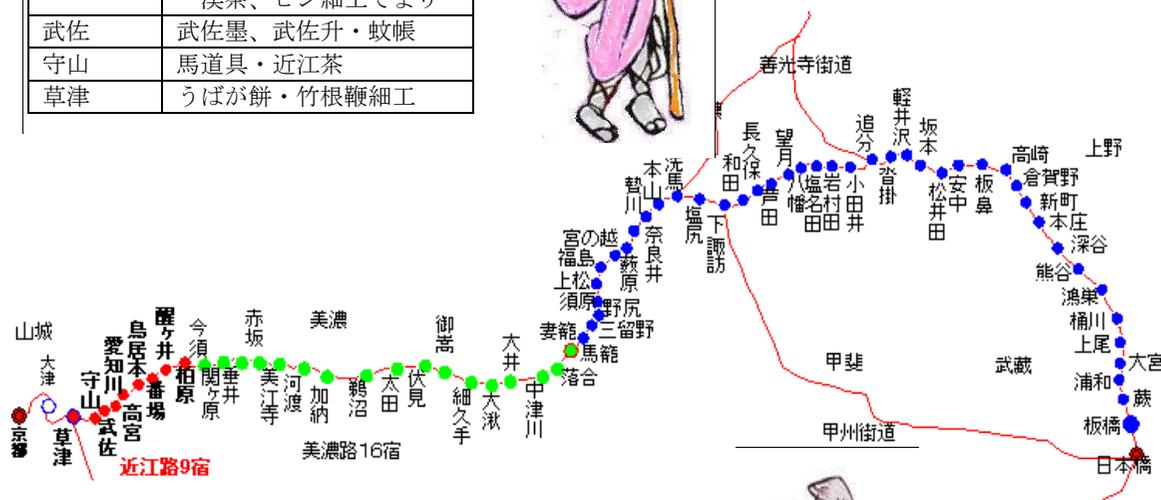
通信使の歴史は室町時代に遡るといわれる。1367年高麗国王の使者が京都に来た。目的は朝鮮近辺に出没する倭寇の取締りであった。将軍足利義詮が対応し修好が交わされた。以降何度か使節の交流は続いたが戦国時代に入ると途絶える。乱世を統一した豊臣秀吉は妄想にかられ朝鮮も支配しようと侵略戦争を仕掛けるが失敗。

1600年関ヶ原で勝利した徳川家康は朝鮮との国交回復を図るべく対馬藩主宗義智に朝鮮との和平交渉を命じた。1604年探賊使が来て05年伏見で家康、秀忠と会見。07年国王の名の元で回答兼刷還使が来る。江戸で秀忠、駿府で家康に会見。(家康の国書に対する回答、捕虜返還のため通信使と云わなかった)後、国書偽造の柳川事件起きる。柳川事件の落ち着いた1636年「泰平祝賀」の名目で使節が来る。このときから「通信使」と名乗る。その後1811年11代将軍家齊まで続く。

通信使は通算12回、2回目は京都伏見で、12回目は対馬で、そのほかは江戸で会見。コースは船で淀川を上り京都-大津-草津-野洲-安土-能登川-彦根-鳥居本を経て中山道垂井宿、美濃路を熱田まで、東海道を江戸まで。一行は400-500人の行列。

中山道近江路九宿(15里半)朝鮮通信使街道(彦根—野洲)

| 宿 | 名物 |
|-----|------------------------------|
| 柏原 | 伊吹艾 |
| 醒ヶ井 | 醒井餅・木彫り細工 |
| 番場 | 脚気の薬 |
| 鳥居本 | 赤玉神教丸・合羽 |
| 高宮 | 高宮布・葛籠こおり |
| 愛知川 | 近江上布(麻布に縮み加工) 一溪茶、ピン細工てまり |
| 武佐 | 武佐墨、武佐升・蚊帳 |
| 守山 | 馬道具・近江茶 |
| 草津 | うばが餅・竹根鞭細工 |



近江商人

参考

- 桃花台中日文化センター「街道」を歩く講座テキスト
- 滋賀県の歴史散歩上下 株式会社山川出版社
- 近江中山道 淡海文化を育てる会 サンライズ出版
- 城下町彦根街道と街並 彦根歴史談会 サンライズ出版
- 「朝鮮人街道」をゆく 門脇正人 サンライズ出版
- 近江中山道ガイドブック 近江中山道400年記念事業実行委員会
- 今昔中山道独案内 今井金吾 日本交通公社
- その他市町教育委員会発行史跡冊子、観光協会発行冊子、ガイドマップなど

H15/4—H15/11
あきやま ゆたか
H16年1月